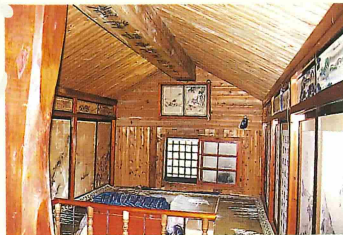
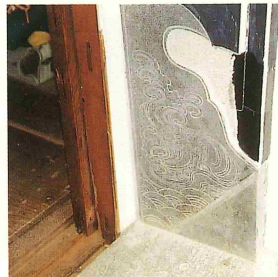


◆文庫蔵 外観



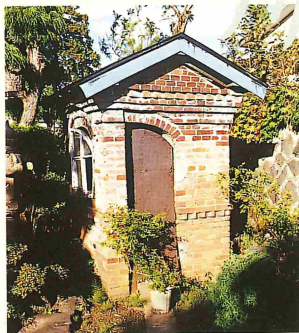
◆文庫蔵 2階内観



◆文庫蔵 冠木柱下部詳細

文庫蔵は敷地北西部にあり南東を正面とし、前面に下屋を付し、内部は1、2階とも各1室の構成となる。1階正面中央に箱階段があり、2階は階段付近に洋風高欄を設けている。2階襖、欄間、妻側換気窓建具には、牧野雪僊などの著名な絵師による絵が描かれている。正面入口冠木には黒・白の漆喰を用いて家紋を入れ、内扉には雲水の彫物が入られている。構造細部、装飾細部に於いて優れた特徴を数多く有する。

小便所は敷地東端脇に位置し、正面入口上部部を1/4円弧アーチとし、鉄板張の扉を用い、西側面上端部を欠円アーチとし、それに合わせた木製両開き硝子窓構え。正・側面アーチ上部は鋸型飾り積にし意匠上のアクセントを添えている。煉瓦造形式の便所は県下でも珍しく、細部も特徴的である。

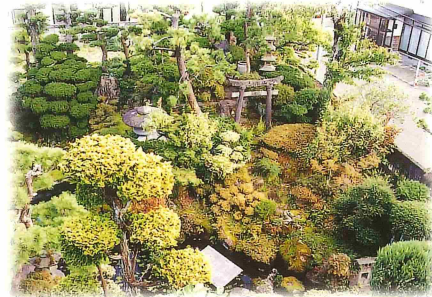


◆小便所 外観

### 佐々木家の歴史

佐々木邸が建つ由利郡は秋田県南部、由利町前郷にあり、町の中心部、子吉川東側の平地部に位置する。

佐々木家は代々、この地域の大地主の家系であり、七代目当主・三太郎はその傍ら、賃貸業も営む商人であった。三太郎の子、八代目当主・新吉郎は、さらに米穀を貯蔵するための貸倉庫業も営んだと伝えられ、当時の佐々木家は地主・商家としてこの地方で名が知られていた。九代目当主・高義に至っては歯科医院を開業、十代目当主・高昭も先代の家業を受け継ぎ、開業歯科医師として活躍、現在に至っている。



秋田県由利郡由利町前郷字前郷207



国登録有形文化財

時代を生きる工匠の技

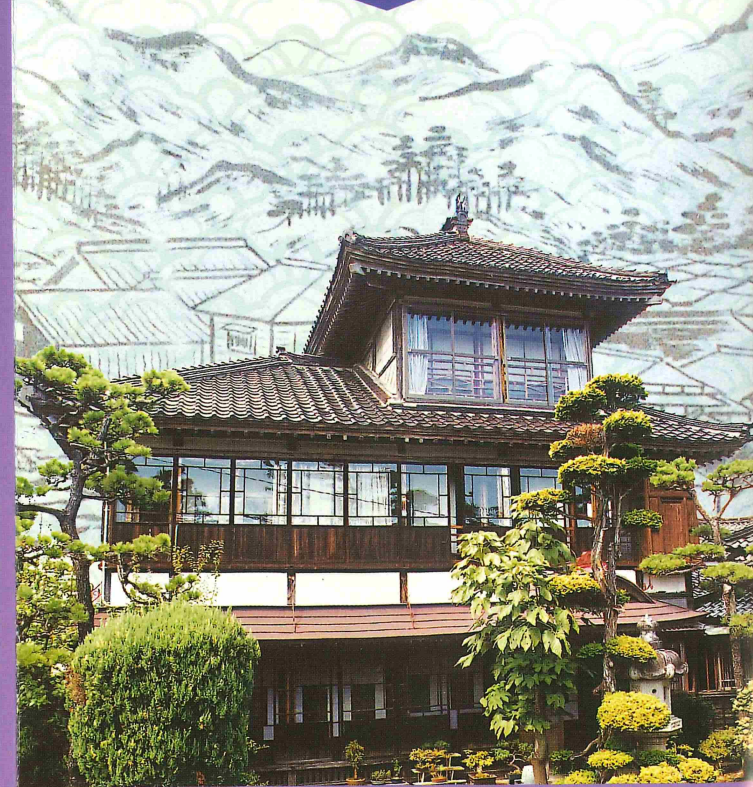
# 佐々木邸

住宅(主屋)

養老閣(別邸)

文庫蔵

小便所



県内唯一の木造3階建別邸建築 養老閣(別邸)

# 佐々木邸

- 4棟(1ヶ所4件)
- ◆住宅(主屋)
- ◆養老閣(別邸)
- ◆文庫蔵
- ◆小便所

佐々木邸は、八代目当主・新吉郎により明治33年に文庫蔵、大正3年に住宅(主屋)、大正10年に養老閣(別邸)が建立された。

住宅(主屋)は、ほぼ敷地中央に位置し、正面中央の正面玄関には、舟底天井、妻飾りの懸魚(雲水)、が施されている。箴欄間、桜木をモチーフとした杉戸、当時としては大変貴重な電話室(硝子に電話室と記した扉付)、北側の新邸宅に接続する太鼓橋などが特徴である。

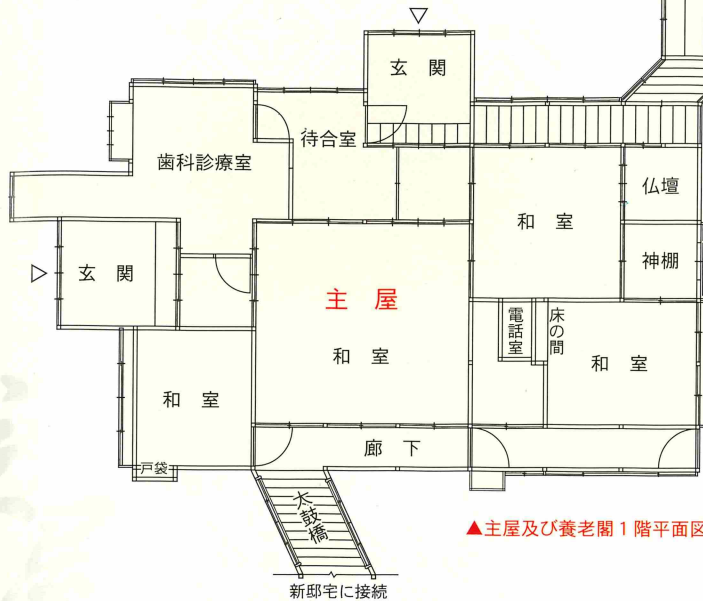
別邸『養老閣』は、敷地前面北西側に建ち、県下でも現存する唯一の木造3階建別邸建築である。着工は大正6年頃に始まり、竣工までに5年の歳月を費やした。玄関ポーチ妻には『鶴に雲紋』、縁及び廊下の天井は樟縁天井。上・下座敷境の欄間は成組子形式とし『月に雁』の彫物を付す。各座敷側廻り戸中央は、『前郷八景』などをモチーフとした特注擦硝子が嵌め込まれている。

一部時流の改修は見受けられるものの、往時の姿を色濃く残し、工匠の卓抜した技術、粋を強く感じさせる建築であり、当時の建築技術を解明する上でも非常に貴重な遺構である。

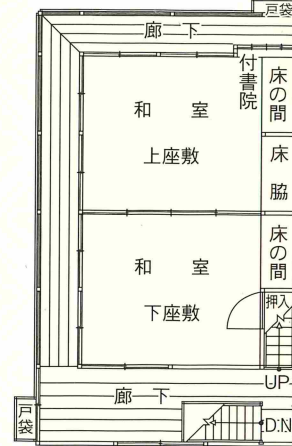
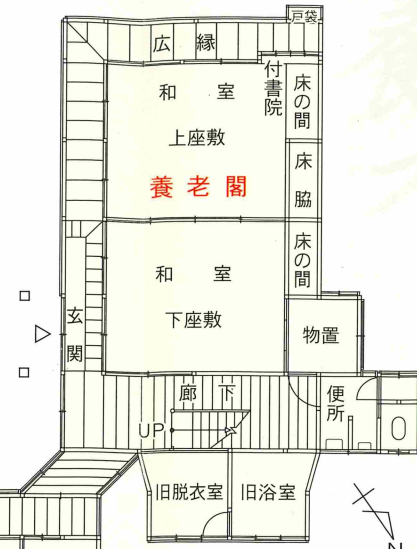
- 住宅(主屋) ◎木造平屋建……………157.74㎡/大正3年建立
- 養老閣(別邸) ◎木造3階建……………92.31㎡/大正10年建立
- 文庫蔵 ◎土蔵造2階建……………71.92㎡/明治33年建立
- 小便所 ◎煉瓦造平屋建……………2.79㎡/大正3年建立



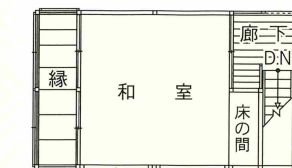
◆養老閣 1階 上座敷



▲主屋及び養老閣1階平面図



▲養老閣2階平面図



▲養老閣3階平面図



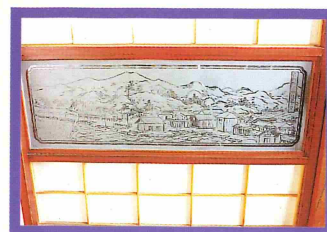
◆養老閣 階段室内観(箱階段形式)



◆養老閣 3階 内観 (天井板はムクの樺材)



◆太鼓橋(主屋から新邸宅へ接続)



◆養老閣 特注擦硝子(前郷八景)



◆養老閣 3階 高欄詳細



◆主屋 正面外観